

[令和7年度] 第13回 飯田市新文化会館検討委員会 会議録

| | |
|-------------------|--|
| 会議名称 | 第13回 飯田市新文化会館整備検討委員会 |
| 開催日時 | 令和7年11月27日(木) 午後7時00分～8時40分 |
| 開催場所 | 飯田市役所C棟3階会議室 |
| 出席委員 (敬称略・順不同) | 上沼俊彦、川崎好昭、塩澤哲夫、桑原利彦、黒河内智子、松岡一成、飯島剛 久米義輝、前澤正徳、森本典子、小澤櫻作、佐々木宏幸 |
| 欠席委員 (敬称略・順不同) | 片桐啓、原田雅弘、小木曾俊夫、田中悦雄、遠山あづみ、山元浩 |
| オブザーバー (敬称略) | 井坪隆 |
| 出席事務局職員 | 飯田市 : 市長 佐藤健 教育委員会: 教育次長 秦野高彦、 文化会館: 館長兼新文化会館整備室長 筒井文彦 新文化会館整備室: 技幹今村光弘 新文化会館整備係: 係長植松一成、係員岩下裕輝 事業係: 館長補佐兼係長福澤信幸 人形劇のまちづくり係: 係長永田麻美子 |
| 会議の概要 | <p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 新文化会館整備検討の報告 「飯田ひろば」実現のための基本方針(案)</p> <p>(2) 委員から意見・感想</p> <p>4 今後の予定ほか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田市議会全員協議会 12/19(金) ・本日の感想、ご意見等はアンケート用紙に記入し、後日提出 <p>5 閉会</p> |

※会議録(発言)には委員の氏名を掲載いたしません。

令和7年度 第13回 飯田市新文化会館整備検討委員会 会議録

令和7年11月27日（木） 午後7時00分 開会

1 開 会

○委員長 こんにちは。まだ3人ほどお見えになっておりませんが、定刻となりましたので、ただいまから第13回新文化会館整備検討委員会を開催いたします。

本日はご多用のところ、また、お勤めの後でお疲れのところお集まりいただき、ありがとうございます。

学識委員の皆さんは、オンラインでの参加となりますが、よろしくお願いします。

また、本日、田中委員、原田委員、小木曾委員、そして山元学識委員から欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告させていただきます。

2 あいさつ

○委員長 改めまして、皆さまお久しぶりです。

私事ですが、いろいろな方から新文化会館について「どうなってるんだ」、「こういうふうじゃないの」と話かけていただいていたのですが、「まだ、よく分からんのな」と返事をしていました。本日は、少し具体的にお話いただけるとと思いますので、皆さんの忌憚のない質問、感想等を寄せていただきたいと思います。

それでは、佐藤市長からご挨拶をいただきます。

○市長佐藤 本日は、大変お忙しい中、また夜分寒い中、お集まりいただき、ありがとうございます。また、オンラインでご参加いただいております、佐々木委員と小澤委員もお忙しい中、ありがとうございます。

先ほど委員長から「お久しぶり」とありましたが、長く市役所の内部で検討をしてきた検討結果を、ご報告し、またご意見をいただきたく、お集まりいただきました。後ほど詳しく説明しますが、少し私のほうからご説明を申し上げます。

令和4年から新文化会館整備検討委員会で議論いただき、令和6年3月に「新しい文化会館の整備に関する基本構想」をまとめていただきました。大変精力的にご議論いただいたこ

とに改めて感謝を申し上げます。

基本構想をまとめていただき、具体的にどう実現するかと、令和6年度から基本計画の作成作業に入ったのですが、世の中の建築費や人件費が高騰し、また、リニア開業時期は10年以上先になる見通しになったこともあり、市の財政見通しも大幅な変更を余儀なくされた事情もあり、令和6年度中にはまとめるに至らない状況になりました。

専門家会議でもご意見をいただき、基本構想をまとめていた際の「1カ所で」という前提について、厳しい財政状況の中で、「敷地の確保が難しい」という我々の事情をお話する中で、「分散整備」という考え方にも一定のご意見をいただき、それらを検討してきました。

先ほど委員長からお話があったように、私どもも「具体的に場所はどこになるのか」というお話を市民の皆さんから聞かれ、非常に関心の高い内容であることを感じながら検討を進めてきましたが、一定の結論としては、1カ所ではなく分散整備をする。これは財政事情や敷地の確保が難しいという事情もあるのですが、一方で、まちのいろんなところにそのような拠点があることは、まち全体で「飯田ひろば」を実現するというプラス面もあるという話も含めて評価した結果、分散整備という方針が一つ。

それから、順番を検討する中で、今年度に入り、ご承知のように飯田文化会館の空調が止まる、あるいは天井が落ちるといった不具合が出て、分散整備するにしても、文化活動を止めないために、まずは今の飯田文化会館を改修しなければいけない。そういう事情もありまして、まず現在の飯田文化会館を改修し、市民の皆さんの文化活動を止めないための手立てを取らなければいけない。その後、分散整備していく。後ほど詳しく説明しますが、順番として現飯田文化会館を改修する。改修し、時間をいただく中で、小ホール・中ホール・大ホールという順番で整備していく。そのような方向で考えたいと、今日ご報告するものです。

また、分散するということは、それぞれの場所で整備しなければいけないので、1カ所で整備すれば必要ではなかった経費がかかる可能性が非常に大きいこともあり、単純な分散ではなく、ほかの機能とほかの整備予定のものと複合的に整備していくという方針で考えたいとまとめました。

先ほど申し上げましたが、非常に市民の皆さんの関心の高い事項なので、これにはいろいろなご意見が出てくると思いますが、市としてはこれから申し上げる方針が最もいいのではないかとまとめたものなので、市民の皆さんからのご意見をいただき、最終的な方法を決めて進んでいきたいと思っております。

長年お待たせした方針について、市の考え方をご説明しますので、ぜひご意見をいただきたいと思います。

○委員長 ありがとうございます。

議事に入る前に、事務局から事務連絡がありますのでお願いします。

○次長秦野 教育委員会教育次長の秦野です。よろしくお願いします。

本日の委員会は昨年 12 月以来、今年度になり初めての開催です。委員任期 1 期目の令和 4 年・5 年度の委員会は、基本構想の検討段階として、何回もお集まりいただきましたが、委員 2 期目の昨年度は専門家会議で基本計画をご検討いただき、その内容に関して意見を伺う形式として開催させていただきました。皆さまの任期は 2 年間ですので、今年度の 3 月末で任期は終了となります。

なお、昨年度から委員の交代がありますので、ご報告します。委員会名簿をご覧ください。

名簿 5 番の「人形劇のまち飯田」運営協議会を代表して桑原利彦さんに、名簿 11 番の飯田市公民館館長会を代表して橋北公民館の久米義輝さんに委員をお願いしています。

事務連絡は以上となります。

3 議 事

○委員長 それでは議事に入ります。

(1) 新文化会館整備検討の報告

○委員長 (1)「新文化会館整備検討の報告」について、事務局からお願いします。

○室長筒井 新文化会館整備室の筒井です。資料の説明をさせていただきます。

説明に入る前に、資料の確認をさせていただきます。資料は会議次第、資料No.1「飯田ひろば」実現のための基本方針案、資料No.2 基本方針の参考資料、No.3 第1回・第2回専門家会議等で検討いただいた資料の一部抜粋、さらにアンケート用紙、ニュースレターの第 12 号、新しい文化会館整備に関する基本構想の製本したものを参考としてお配りしました。

先ほどの事務連絡のとおり、今回初めて委員として出席されている方もいらっしゃるので、丁寧に説明をさせていただきます。

ニュースレター第 12 号は昨年度検討してご意見いただいた内容です。12 月 19 日に行った整備検討委員会で「施設を分散整備した場合、基本構想の実現にどう影響するか」と、ご意見をいただいたもので、ニュースレターの裏面に専門家会議の皆さんからの意見を抜粋してありますので、ご確認をいただければと思います。

本日は主に資料No.1 を説明いたします。

表紙に下段に目次があります。基本方針案では、単なる建替えではなく飯田市全体を文化

の舞台にするため、新しい挑戦を始めようとしています。それが今回お示しする『飯田ひろば』実現のための基本方針案」です。

2 ページ「はじめに」をご覧ください。これまでの経緯を簡単にご説明します。飯田文化会館は昭和 47 年に完成し、半世紀にわたり飯田の文化を支えてきましたが、建物の老朽化は避けられません。令和 4 年 6 月に新文化会館整備検討委員会を立ち上げ、市民の代表 13 名、公募員 3 名、専門家 3 名、合わせて 19 名の委員の皆さんで話し合いを重ねてきました。

その中では、「飯田の文化とは何か」という根本的な問いから始め、ワークショップを行い、専門家をお招きし、学び、飯田らしさとは何かを深く考えてきました。そして、令和 6 年 3 月、新しい文化会館の整備に関する基本構想をまとめることができました。

次に「経過」をご覧ください。

上段に飯田文化会館の歴史が書いてありますが、当初の建設に何度も挫折がありました。昭和 31 年に検討が始まりましたが、2 度建設を断念しています。そして 3 度目、昭和 47 年に現在の場所に完成しています。

昨年 8 月に専門家会議を設置し、基本計画の検討を始めました。先ほど市長があいさつで話しましたが、大きな課題に直面しています。建設費の高騰、広大な土地の確保、そして長期財政見通しへの影響、こうした現実を前に、改めて考える必要が出てきました。しかし、専門家の皆さまから「機能を分散して段階的に整備する方法もある」と新しい可能性をいただきました。

続いて 3 ページをご覧ください。建物と整備場所候補に関する記載があります。

先ほど市長が申し上げましたが、市の内部で様々な検討をしてきました。一体整備のメリット、特性が書いてあります。一体整備であれば 1 カ所に集まり、賑わいが生まれやすい。また、管理がしやすく運営コストを抑えられる。ただし、広い土地が必要で、場所の選択肢に限られる。さらに建設費が一度に大きくかかるという特性があります。

その中で、分散整備という新しい考え方では、より多くの方が身近な場所で文化に触れられる。また、市内の複数の場所に賑わいが広がる。用地の確保が比較的容易になり、施設整備の柔軟性が高くなる。ただし、管理運営の連携、人員の体制確保には検討が必要となります。また、段階的に整備ができるので、財政負担を分散できる。一方で、施設全体の総額が増える可能性があります。

現実として、建設費推移のグラフをご覧ください。過去 10 年間で建設費は上昇しています。特に令和 2 年以降、資材・労務費の高騰が加速しました。平成 27 年を基準に 100 とすると令和 7 年は 136.5、約 1.36 倍になっており、この上昇は今後も続くことが予測されてい

ます。

続いて4ページをご覧ください。整備箇所候補を比較検討しています。

候補地をエリアごとに比較しています。資料は昨年の整備検討委員会でお示した資料を資料No.3としてありますが、そこから抜き出したのが、この表です。左端が中心拠点でして、メリットは交通の便がよいことや、高校生・学生が利用しやすい、飲食店の相乗効果も期待できること。ただし、広い土地の確保が難しく、表の一番下の用地補償費が、約36億円程度と最も高額です。

中心拠点近郊の列をご覧ください。こちらのメリットは、中心市街地に近く利便性が高い、高校生が立ち寄りやすいこと。ただし、用地補償費は約15億円程度必要で、また、住宅が近いため、騒音への配慮等も必要です。

一番右側の広域交通拠点、リニア駅周辺のことですが、こちらは将来のリニア開通を見据えた立地で、土地は比較的確保しやすく、用地補償費も含めて約8.5億円程度で、費用的には最も低いです。メリットとしては、リニア駅前広場との相乗効果、駐車場の確保、リニアの利用で広域からの集客が期待できること。ただし、現時点では中心拠点からのアクセスに課題があります。

いずれにしても、用地補償費は2ヘクタール程度の用地を想定し、昨年度、各候補地で用地取得費と移転補償費を合算した金額の表です。

さらにページの下段には、「現飯田文化会館の施設・運営に関する最近の出来事」をまとめています。重要な事実として、現飯田文化会館は深刻な状況です。利用されている皆さんはご存じかと思いますが、今年だけでも次々とトラブルが発生しています。4月にはホールの空調が故障し、旧飯田市公民館から空調設備を移設して対処していますが、新しいものではないので、また故障するリスクがあります。5月にはホールの舞台技術管理業務受託者の方が長期療養になられた。6月には講習室の空調が故障。7月には講習室の天井が屋上防水の劣化が原因で落下しました。さらにはホールの音響操作卓、8月には照明操作卓に不具合が出て、いずれも応急的な修繕は行っていますが、これらは氷山の一角であり、舞台、空調、電気、給排水など各種設備全体が限界を迎えつつあり、文化活動を止めないために一刻も早い対応が必要となり、今回の方針が生まれました。

これまで専門家会議や整備検討委員会の皆さまの議論を基に、総合的に判断した結果と昨年度までに明らかになった3つの課題と、現在の飯田文化会館の深刻な状況を解決する方法として、これからご説明する機能を分散して段階的に整備する方針にたどり着いたものです。

続いて、5ページの「基本理念」をご覧ください。

「飯田ひろば」の心臓部でもある基本理念を改めて示しています。「市民とともに文化を育み『みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば』」この言葉に整備検討委員の皆さんの思いが込められています。具体的には、5つの方針として、「集う」、「観る」、「創る」、「伝える」、「育む」、5つの「飯田ひろば」の柱があります。

次に、6ページの「『飯田ひろば』の概念」をご覧ください。これがとても大切なポイントです。

「飯田ひろば」とは、建物のことではありません。飯田市全体を「飯田ひろば」としていきたいとするものです。市内のあちこちで文化活動が行われ、人々が集い、創作し、伝えていく、まち全体が文化の舞台になることが基本構想を検討いただいた皆さんの思いと感じています。飯田文化会館を拠点に、ムトスぶらざ、人形劇場、伝統人形継承施設、さらに地区公民館、これから整備する新しい文化施設、これら全てが「飯田ひろば」を実現するために必要なネットワークとなります。

市民の皆さんが日常的に舞台芸術や文化活動に触れ、楽しみながら暮らす。市内のどこでも誰もが集い、創り、伝える活動が繰り広げられ、ワクワクドキドキが生まれ続ける。これが「飯田ひろば」の目指す姿です。

続いて7ページ、5の「整備方針」です。

冒頭でお話しましたが、3つあります。

第1に、「まち」全体で「飯田ひろば」が実現するよう機能を分散して整備します。

第2に、文化活動を止めないように、まず現在の文化会館の改修に着手します。そして、小ホール・中ホール・大ホールの順に段階的に整備します。

第3に、限られた財源を効果的に活用するため、複合化を基本に施設整備を行います。複合化とは異なる目的や機能を持つ複数の施設を一つの場所・建物に集約させることです。

その下の6の「整備方針の考え方」ですが、整備方針を改めて整理してあります。一番上のダイヤでは、「飯田ひろば」を「館」単体でなく「まち」全体で実現する。「飯田ひろば」を一つの館で実現する場合、建設費の急騰により財政負担や、広大な敷地という課題があります。

それに対して、分散整備は施設それぞれに特色や機能を持たせることで、多様性・発展性が期待できます。さらに、利用者の間口・選択肢を増やすことができ、市内の複数の箇所で開催の場を生み出すことができます。

このため、「飯田ひろば」を実現するために必要な設備は、一つの館で整備するのではなく、複数の施設に分散して整備し、「まち」全体で「飯田ひろば」の実現を目指します。

繰り返しになりますが、現飯田文化会館は今年度になって経年劣化による施設の不具合が多発しています。文化活動を継続し、文化を止めないために、その解消に着手し、続いて各ホールの機能を段階的に整備していきます。

ただし、「必要な視点」、注意すべき点があります。

1点目は、施設を分散して整備する場合、財政負担の平準化は図られますが、設備費用の総額が増加する可能性があります。このため、整備施設は複合化を基本に検討します。

また、「飯田ひろば」を「まち」全体で実現するためには、整備された拠点間を結ぶ交通機能が不可欠です。専門家会議でもご指摘いただきましたが、施設整備と併せて拠点間を結ぶ交通機能の検討も必要となります。

8ページをご覧ください。分散整備する機能と場所を、整備順に説明します。

まず、小ホール機能を旧飯田市公民館跡地に整備します。

飯田市立動物園、りんご並木、ゆいきっず、人形時計塔、桜並木の動線と、ムトスぷらざ、中央図書館、美術博物館の動線との結節点にあり、ほかの拠点との相乗効果が高い場所です。

さらに、「飯田ひろば」の「観る」機能も、施設利用前後で飲食店利用が考えられ、親和性が高いと考えられます。

そして、「飯田ひろば」の「集う」の機能のうち、こども・親子の皆さんが日常的に集う機能はこれまでに乏しかったため、小ホールに充実させたい機能です。

さらに、「雨の日や猛暑の日でもこどもが遊べる場所を整備してほしい」という声が子育て世代から寄せられています。これは議会からも同様の要望が出されています。これらを実現するための複合施設として「(仮称)飯田こども広場」の整備を検討します。

次に、中ホールです。

中ホール機能は、県文化センター周辺への整備を検討します。県文化センター周辺には2つの高校があり、県文化センターはJ R飯田線の県駅と2つの高校を結ぶ動線上に位置し、「飯田ひろば」の集う機能のうち、中高生を中心とした若い世代の日常的な利用に適しています。現在も高校生の演劇、吹奏楽等でも活用されています。さらに、県複合施設の構想があり、その構想を整理する中で、「飯田ひろば」の中ホール機能を取り入れることを検討したいとするものです。

次に、大ホールです。

当面は現飯田文化会館の改修により、その機能を補いたいと思います。耐震改修は済んでいます。設備の改修が急務となっています。座席数や快適性の向上は、今後、財政負担も含めて早急に検討します。要望の多いトイレの改修も併せて検討を進めます。

改修し使用する間に、新しい大ホールの整備の検討を進めたいとするものです。

新しい大ホールは、現時点で候補地として考えているのはリニア駅周辺です。理由は、大ホールに必要な敷地面積が確保しやすく、また、リニア駅前広場と駐車場の共用が可能であり、「飯田ひろば」の集う機能として、リニア駅前広場と相乗効果が期待できることです。さらに、リニアの利用で演奏される方、上演される方のアクセス利便性が高い点もあります。

9 ページ、「分散整備する機能と所要室の概要」は、ホールを中心に分散した場合の利用者の主な世代と各機能に応じた施設の概要です。人数は、これまでの検討や今後の社会情勢を考慮した現時点での想定で、今後施設の複合化を検討する中で具体的に深めていくことになります。舞台芸術の視点では、鑑賞または創造支援が必要条件となりますので、その部分はこちらに示したとおりです。

また、分散しても「集う」、交流の機能は重要だと考えています。規模は検討するものとしても、交流の機能も重要ということで示しています。

ページ下段は、整備の順番、現飯田文化会館の改修、小ホール整備、中ホール整備、大ホール整備を示しています。

10 ページ、「飯田文化会館改修基本計画」で考え方を示しています。

基本的な考え方として、新しい文化会館の整備に関する基本構想を踏まえた改修とします。市民の皆さんに親しまれ、交流となる場を目指す。さらにはバリアフリーで使いやすい施設を目指す。駐車スペースの課題もありますが、可能な限り確保に努めていく。ここも大事なところですが、休館期間を最小限にし、改修しながら使っていただくことを基本に考えています。

その次に「建物の方針」です。

目標使用年数は73年で、今後最大20年使いたいと考えています。これは高額設備の更新周期を考慮し、最大20年とするものです。特に、電気、空調関係といった高額なものを更新すると最大で20年使えるため、最大の20年を目標にしています。

効率的な改修、ランニングコストの削減を図る改修を行います。また、使いながらの工事となるので、安全を最優先として改修を行います。

耐震補強工事は完了していますが、これから行う主な改修工事の内容は表に示したとおりです。非常に多岐にわたりますが、優先度に関して早急に検討し、まずは機能不全にならないように緊急度の高いもの、具体的には電気関係、給排水関係が高くなるかと思いますが、優先度の高いものから検討し、改修していきます。

各所要室の改修案ですが、飯田文化会館の躯体を大きくする改修は難しいので、現在の所

要室を基本構想の検討で、こういう空間があるといいのではないかとご提案をいただきましたので、現在の所要室の改修案を表に示しています。気軽に立ち寄れて交流ができる空間、より練習がしやすい空間、ホールに関してはより快適に過ごせる空間。部屋のサイズを広くすることは難しいですが、より使いやすい空間にどうできるかを今後検討していきます。

ページ下段の「将来を見据えて」ですが、大ホールの整備には他施設を含めた市民ニーズ、利用状況、社会経済情勢等も十分に考慮し、中長期的な視点で適正な規模・内容を検討した上で、整備を進めます。

最後に、「飯田ひろば」とは、単に建物の話ではありません。これは飯田市全体を文化の舞台にしようという壮大な挑戦です。現在、建設費の高騰、財政の制約という厳しい現実があります。現飯田文化会館の老朽化も深刻です。しかし、制約の中から専門家会議の皆さんや整備検討委員の皆さんのご意見により、基本構想の具現を追求すべきということで今回の方針を生み出しました。

一つの大きな建物ではなくて、市内の複数箇所で文化の拠点をつくることで、より多くの人が身近な場所で文化に触れられ、まち全体に賑わいが広がる。そして、改修した文化会館、（仮称）こども広場、鼎の複合施設、その先にある大ホール、これら全てが市民の皆さんの文化活動を支え、次世代へ引き継いでいきたい。「みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば」、この理念を市民の皆さんとともに一歩ずつ実現していきたいと思い、基本方針案としてお示しするものです。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま議事（１）「検討の報告」の説明がありました。

ご質問がありましたらご発言いただきたいと思います。なお、議事の（２）で意見・感想を伺いますので、ここでは全体で共有すべき確認事項やご質問をいただければと思います。発言される場合には挙手していただき、着座のままご発言いただきたいと思います。

それでは質問のある方、どうぞお願いします。

（発言する者なし）

○委員長 それでは、次へ進めさせていただきます。

（２）委員からの意見・感想

○委員長 （２）「委員からの意見・感想」に進みます。

初めに学識委員、そして委員、オブザーバーという順番でご発言いただきたいと思います。

なお、その感想発表の後、学識委員の皆さんから再度コメントをいただきます。

それでは、よろしくお願いいたします。

○学識委員 大変分かりやすいご説明ありがとうございました。この一年間で、非常に大きな状況の変化が起きたとよく理解できました。

そういった中で、この検討委員会で重要なことは、策定した基本理念それから基本構想の内容が実現されうる方向に向かっているかどうかだと考えています。そういう視点に立った場合に、基本方針として飯田市全体を文化の舞台にする方向性は、私自身は基本理念・基本構想の考え方を十分継承しうるものになっていると感じました。それが1点目です。

それから、2点目は、その構想を実現するために、当初想定していなかった手段が2つ出てきたと理解しました。一つが分散配置・分散整備、それから2つ目が段階計画です。

私自身は、分散配置・分散整備というのは非常に可能性を持った方法だと思っていますし、やり方次第では集中配置よりもより大きな波及効果が見込めるのではないかと考えています。

それから説明いただいた段階計画も、飯田のこれからの三重心という都市構造、丘の上とアップルロード、それからリニアの新駅の周り、との整合性もあり、それぞれの重心の中、あるいは近くに小ホール・中ホール・大ホールを段階的に整備していくとことも、非常に私自身にとっては説得力があり納得できるなと考えました。特に小ホールは、旧飯田市公民館跡という、今はあまり活用されていない中央公園との一体的な活用も考えられるかなと思いました。

一方、やはり今後チャレンジを必要とする部分が2つほどあると感じました。一つ目は分散配置が飯田市全体の都市構造の改善にもつながっていくものになり得るのかということです。裏を返せば、分散配置は、この文化会館の整備を飯田市の都市構造の改善につなげていくチャンスであるとも捉えられると考えました。この辺りが今後どういう空間づくりをしていけば、つながっていくのかの検討が必要であると考えました。

それからもう一つのチャレンジは、本日の説明にもあったように、実現性です。コストはもちろんのことながら、管理、運営が分散配置によって負担が大きくなる部分、それを「複合化」によってどのように解決をしていけるのかを考えていくことになると思いました。

まとめますと、現状を考えた場合に、今日説明いただいたのは基本理念・基本構想を継承していくにふさわしいものだと感じました。一方で、今後解決しなければいけない飯田市全体の都市構造の改善や、実現性の検証、そういったところを十分に議論しながら考えていくことが重要と理解しました。

私からは以上です。

○委員長 ありがとうございます。

続いて、お願いいたします。

○学識委員 丁寧にご説明いただき、ありがとうございます。第 13 回ということで、令和 4 年から始まったこの委員会と現在の状況まで、とてもまとめていただきまして分かりやすいなと思いました。

私からは、まずは分散整備と段階整備が今回のご報告のポイントなのかなと思っています。それに関しては 7 ページの 5 にある「文化活動を止めない」という言葉が私はとても感銘しました。文化施設の建替えは、どうしても文化活動が止まってしまうケースが多いです。「日常の」と言いますか、「通って」と言いますか「定期的に」が文化活動にはとても重要です。最近の記憶であれば、コロナのときに一気に文化活動が止まって、その後再開にまだ苦しんでいる団体は、全国にも多くあると思います。そのように一度止まってしまうと再始動が難しいのが文化活動ですので、これを止めないと強くここで書かれていることにとても感動しました。

それとまち全体で、この「飯田ひろば」の実現と分散配置、分散整備がとてもつながっています。最初は一体整備のイメージでスタートしたと思うのですが、今の社会情勢や内部環境が厳しい中で、全国的にもホールの計画が頓挫して中止になっていく状況から、こういった分散・段階で基本理念・基本構想を実現するんだという強いメッセージは、とても力強く思いました。

ホールができると新しい施設でいろんな活動ができるのですが、施設と活動は強いつながりがあります。ホールを造るときは基本理念もリニューアルされ、その実現に向けた機能・活動が重要になります。しっかりと基本理念の実現に向けた活動をしていくことにより、分散と段階というのがより効果的に実現できるのではないかと期待しています。

あと、現飯田文化会館の長寿命化についてもすごく考えておられ、休館期間を最小限にするという文化が止まらないような計画なので、多少の影響は出ると思いますが、安心かなと思っています。

私からは以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、続いて委員の皆さんから意見や感想を伺いたいと思います。

○委員 今のお話の感想とすると、大ホール改修と文化活動を止めないことを前提に改修されるのは、大賛成です。ただし、この会検討してきた 1 カ所にまとまって、そこでの「飯田ひろば」の実現からすると、分散・段階的は「今までの設備の改修か」と、捉われかねないところも

あると思っています。

ただし、先ほどのお話にあった、地域にいろんな設備があり、それを活用する人たちのためというのは、非常によく理解できるのですが、この委員会で構想した「飯田ひろば」を一つの場所として、1カ所に集中するのは、これからの飯田市の人口動態を考えても一番いいと思っています。リニアが来ると当然変わると思うのですが、それまでは人口減少して高齢化が進んでいくので、いろんな施設が1カ所にあったほうが使いやすいし、先ほどのお話にもあったように、管理運営の部分、文化事業を行っている文化会館がその中で動けるのか、人の確保ができるのかを考えると、理想的には1カ所がいいと思っていますが、現実的に財政事情等を勘案すると分散も仕方ないと思っています。

管理運営は厳しくなるのと、ここにいる委員が活動するのは、ほぼ大ホール、現飯田文化会館になるかなと感じています。

ただ、改修した飯田文化会館が「20年保つ」ということで、私は将来的に少し変わってもいいかなと思っています。今は分散・段階型の施設改修でいいですが、20年たつと私もいなくなっていると思いますので、新しい皆さんの考え方が出てきてもいいと思います。そのときに「飯田ひろば」という我々の構想が生かせてもらえればという感覚を持ちました。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございます。

続いて、お願いします。

○委員 非常に丁寧なご説明いただきまして、大分理解ができておりますが、先ほどもお話が出ていましたが、一体化から分散型整備という流れになっていくわけで、基本理念で考えた内容が3つに分散された場合、小ホール・中ホール・大ホールそれぞれに理念を組み込んだ施設にしていくことになる、1回考えればいいものを3回考えないといけなくいなり、かなり大変な作業になると思っています。

最終的に大ホールが出来上がるのは20年後ということで、現飯田文化会館を改修し、保たせていくということは大事なことになると思いますので、早急に改修工事をしていただき、快適に飯田文化会館を使っていけるようにしていただきたいと思います。いろいろ細かくどういう改修をされるかが出ておりますが、早めにしていただきたいというのが希望です。

それと、用地取得によっては、リニア駅の近くに大ホールを予定されているということですが、用地取得の費用をできるだけ抑えていただき、それよりも施設に金をかけていただきたいというのが私の希望です。

それとそれに向けて、分散になりますと、運営経費も一体型よりかかってくるのではない

かなと思います。長い目で見るとどうかとは思いますが、現在運営されている方たちは、当然年を取っていくので、今から早急に人材育成をしっかりといただき、出来上がったときには滞りなく運営できることを希望します。

建物、ハード面だけじゃなくて、そういった面も十分考慮していくべきではないかなと感じています。

大分細かい説明をいただきまして、ありがとうございました。

以上です。

○委員長 続いて、お願いします。

○委員 今、社会情勢の変化を踏まえて、極めて実現に向けて現実的な案が出されたと理解しました。

一つ、私としては考えてほしいのは、この基本方針案の6ページに「飯田ひろばの概念図」を示していただきましたが、ここに描いてある施設、伝統人形伝承施設や地区の公民館、飯田文化会館があります。こういうものは既に、施設の老朽化といった課題はありますが、飯田市の中にあります。こうした基本的な施設はあるにもかかわらず、人を育み、まちを育み、活力を生み出すという機能が必ずしも十分に発揮されている状況ではないと思います。ですから、このテーマを実現するための、今回はハードの面、施設整備の話が中心ですが、目標とする姿を実現するためのソフトウェアについても、今のうちからしっかり知恵を絞って、既存施設の中で何か「飯田ひろば」の機能を先取りするような動きを生み出す必要があるのではないかと感じました。

以上です。

○委員長 続いて、お願いします。

○委員 今日の説明、非常に分かりやすいなと聞いておりました。

前回、分散配置という整備、考え方が示され、私がいたテーブルでも、それもあり得るかなということでもとまったのですが、それを踏まえると、一つの方法として現実的な対応と理解させていただきました。

その上で、まず「小ホール」という言い方をされていますが、旧飯田市公民館の建物を生かすのか、新たに建て直すのかの説明はありませんでしたが、こどもたちを中心にとという考え方は非常にいい一つのポイントであり、観点かなと理解いたしました。

あと中ホールは、いつ頃やるのが一つのポイントになると思いますが、その説明を今日はいただいております。中学校や高校の部活が地域移行する中で、地域の公民館も含めてどう取り込みながら市の文化活動を盛んにしていくのかをこれから突っ込んでいくのでは

と感じました。

それらを考えますと、お話も出ておりましたが、これから文化施設をどうマネジメントしていくのかは、本当に建物をつくるより大事なことでろうなという点で、市のほうでもよく考えていい体制をつくっていただきたいというのが希望です。

それから大ホールについては、今の飯田文化会館の緊急的な状況に対応しながら 20 年間というお話で、その間に考えるという説明だったと思うのですが、先ほどもおっしゃっていましたが、その 20 年の間、人口を考えると都市機能的に分散させていくのがいいのかどうかも含めて、大ホールの見方はさらに検討していただきたいと考えます。

リニアが来て人口が増えればいいのですが、日本全国の問題ですが、人口が増えていかないとなると、都市機能は分散させないほうがいいのではないかとというのが、個人的な意見ですが、都市機能・都市構造のあり方をよく考えながら、これから大ホールをどう考えていくか、どこに設置していくかも含めて、20 年の間に考えていく必要があると思いました。これは市だけではなくて市民の皆さんも含めて、しっかり検討していただきたいというのが私の感想です。

もう 1 件、先ほども、お話がありましたが、大ホールに例えば 1,500 席のホールが一つあるというのは使い勝手としてはよくないので、どうしても大ホールと中ホール、何百人以下規模のセットは必要であると思います。これは個人的な要望ですが、そこら辺も含めて考えていただければと思います。

最後に繰り返しになりますが、文化を止めない、それから飯田市全体が「ひろば」ということでいうと、公民館も含めて、それから人形劇の施設も含めて、文化のマネジメントのあり方をどうしていくかということもあります。それから私たち市民、利用する側も問われていくということだけ非常に大きな課題として感じました。

ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

続いて、お願いします。

○委員 私ごとですが、勤務先の施設でも建替えがあり、設計のころから、それぞれの話を聞き、「ああでもない」、「こうでもない」と、でも同じように基本理念、方針はブレないようにしないといけないというところで、よりいいものをという理想はあるのですが、現実を考えるとできないこともあることを、建替えるときにすごく体験をしました。今回もそれぞれ飯田市の方々もいろいろと知恵を絞り、ここまで来たのかなと感じました。

分散は分散で、きっとメリット、デメリットがあると思いますが、デメリットはいかにメ

リットに転換するか、そっちへ向けるかを市民の方々からの意見を聞きながら、進めればいかなと思っています。

旧飯田市公民館跡地に小ホールをという考えがあるそうで、ちょうど前にある空き地の広場、それから市民プール跡地を、屋外施設等、子育ての親御さんたちが安心して遊べる場所として、敷地としていいと思いました。

あと、創造館が建て壊しと遊具の再整備で、地域の方々との話合いもありますが、その遊具等、遊び場も、この小ホールの動線の中に入れることができるのかなと思ひまして、今日の話合いの中で、私も知恵を出しながら、意見が言えるといいかなと感じました。

ですので、皆さんの思いをつなげていける。そして、途切れない。それぞれの文化をつなげていくことができるように、これからも私たちも意見を言いながら進めていけるといいのかなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

続いて、お願いします。

○委員 私は個人的に歌やダンス、本当に趣味の世界を楽しんでいます。仕事や生活を離れ、非現実的というか、自分が楽しめる時間を持っています。それが文化活動であるという気持ちはあまりなかったのですが、いろんな場で、文化活動を私は楽しんでいるということを改めて教わり、嬉しい気持ちで続いています。文化会館や飯田市の公民館、いろんな所を使わせていただいたり、発表したり、見たり、聴いたり、自分もお客さんになる立場もあって、本当にありがたい施設がたくさんあるなと思っています。

飯田文化会館が 50 年たち、老朽化で建替えが必要と聞いたときに、市の建物は、古いかから建替えますよと市が言うのが一般的と思っていましたが、このように市民が集って、どんな文化のまちにしたいか、どんなひろばにしたいかと、一緒に考えて話すことが嬉しく、進める方たちは大変だと思うのですが、自分がそこにいられることがありがたいなと思いました。

基本理念を中心に据えて、そこから考えていくことを私も忘れないようにしたいと思っています。自分に何ができるかと考えたら、ここで話されたことを一人でも多くの人に伝えたいと思い、いろんな方に話しています。そうすると、いろんな声が聞こえてきます。例えば、文化会館を使っていない方もいる、知らない方もいらっしゃって、「そういうこともあるのか」と思いました。スポーツ施設を使う方たちは飯田文化会館の利用者とは異なり、飯田文化会館に行ったことがない方もいらっしゃるのだなと思いました。でも、そういう方にこそ知ってほしいなと思い、例えば丘の上の方たちに話すと、「それは文化の拠点だし、いろんな文

化施設があるから丘の上に絶対欲しいよね」と言われ、離れてほしくないなと熱く語る方もいらっしやいました。ただ、丘の上からちょっと離れた場所の方たちに話をしたら、「やっぱりそんな丘の上にできるんでしょ」と言われ、「まだ立地は決まってないですよ」と言うと、とにかく交通、車がないとどこにも行けないと話されました。飯田文化会館での催し物のお知らせや、私も「発表を見に来てください」と言いますが、「車がないと行けない」、「手段がないと行けない」という話や、「三日市場の運動公園へ行くのにも結構大変なんだよ」という話もあり、「やっぱり同じ飯田市のところを1カ所じゃなくて、いろんなところを大事にしてほしい」という声を聞いて、改めてそうだなと思いました。

あと立地はコンサルティングの会社が入って、予算をつけてという感じだったと思うのですが、最終的には市が決めることは確実ですよ。私たちが云々じゃなく、その返答を後でいただけたらと思います。

あと先ほども出ていた管理の問題、この基本構想にもあるのですが、全県の中でも指定管理と直営が半々ぐらいありますが、ぜひ直営でやっていただきたいと思います。本当に大変だと思いますが、市民の顔が見えて市民の声が聞こえるのは、直営でやるのが一番いいと思っています。自主事業館でやっているのは珍しいことで、当たり前じゃない、ありがたいことだと思うので、ぜひつなげてやっていただけたら本当に嬉しいし、協力したいと心から思っています。

管理についてですが、どんなに素晴らしい機能や施設でも、それを扱い、管理するのは人だと思います。どんなに素晴らしい照明器具でも。それに人の心が入って文化が生まれるので、人の力というか人材確保にはとても力を入れていただきたいと思います。

教育委員会でもよく、「ウェルビーイング」とか「幸福度」とかを聞きます。文化活動というのは、やる側も、指導する側も、見る側も、みんなが幸せになる、楽しくなる、嬉しくなることがすごくある。飯田市は環境文化都市と言われているくらいなので、環境だけでなく文化にもしっかり予算をつけていただきたいと思います。すごく財政厳しいというのはよく分かりますけど、その中でもなんとか。そこがやっぱり人づくり、定住促進にもなりますし、飯田に住みたいという気持ちって絶対にそこはつながると思うので、その予算はそれこそ市議会も行われていると思いますけど、なんかそこにつながるというなと思っています。

あと資料の中にも、リニアの関係のことがチラチラ出てくるのですが、結局リニアは10年先、もしかしたらもっと先かもしれない。そうなった場合、リニアを待つのは将来的な構想になってしまうので、今ここに今住んでいる、先ほど「20年後は」って話もありましたが、今の私たち、今のこどもたちにとって、飯田市民、飯田下伊那の人たちにとっての幸せにな

れる文化施設を考えていただきたいと切に願っております。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

お願いします。

○委員 今まで皆さんが言われるとおり、いろんなご意見があると思いますが、やっぱり本来一点集中のほうが人材的にも管理運用的にも回しやすいと思っています。分散するとそれだけ人が必要になりますので、私は一館集中のほうがいいと思います。

舞台技術の観点から言うと、ホールの舞台を管理運営する人間は、1人ではなく、少なくとも3人から4人の複数必要だと思います。例えば、小ホール3人、中ホール4人、大ホールになると6人ぐらいが必要だと思います。このくらいの規模のホールになるとすごく大規模な大人数が必要になる。ホールの運營業務だけではない人材育成、そういうところも見ていただきたいと思っています。南信・下伊那地域には舞台の技術者は8人くらいだけなので、ぜひとも人材育成に目を向けていただきたいと思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございました。

続いて、お願いします。

○委員 主に学校も、飯田文化会館には行事や教職員の研修でお世話になっています。分散型というお話をいただき、これは学校にとってもすごく大事でいいことなのではないかと思いました。

他にどんな行事で使わせていただいているかといえば、教育会の関係で郡の音楽会、連合音楽会。それから人形劇の発表を人形劇場でやらせていただいている。それから、中学では吹奏楽でも使わせていただいている。ちなみに丸山小学校は、校内の音楽会を飯田文化会館で行っています。

これが分散になれば、規模や立地・場所によって会場を選ぶことができる。これは、非常に大きなメリットの一つになるのではと思いました。

それから、教職員の研修でも使わせていただいておりますが、規模によって飯田文化会館をお借りすることもあれば、鼎文化センターをお借りすることもあります。そういう意味でも、選択肢が広がることは非常にいいことと思いました。

この会に来る前に音楽の先生に「何か思いはありますか」と聞いてみました。すると、「子どもたちを発表などの違うところのホールに連れていくと、その新しさとか美しさにまず『うわあ』と感激の声を上げる」と言っていました。ということは、子どもたちにとっても

そういう感激のできる施設であるのは、すごく大事な視点なのかなと思いました。

学校では、学園構想を進めています。その中で、みらい創造科という特設の教科を来年度から正式に始めていきます。それぞれの地域を誇りに思う心を大事にしていきたいと思っているのですが、分散化によってそれぞれの場所にそういう施設ができることは、その場所を大事に思う心を育むことができるのではないかなと併せて思いました。

あと、こどもたちのことを考えると、こどもたちがそれぞれの場所で集うことができる形なのは、学校教育の離れたところでのこどもたちの居場所を考えると、すごく大事な施設ではないかと思います。こどもたちは、自分たちはここで育った、育つことができた、この場所にはこういうものがあったという誇れるものがあることは、こどもたちにはすごく大事になる。飯田に帰ってきたい、場合によってはそう思うのではないかなと思いました。

以上でございます。

○委員長 続いて、お願いします。

○委員 最初に構想を練っていた時は、ダイナミックに新しい世界が見えるという夢がある程度あったが、こちら側のせいじゃなくあちら側の事情で世の中が変わり、ない袖は振れない。できることは何なのかを考えると、先ほどの説明を聞くと仕方がない状況なのは、皆さん同じように思っていると思う。

その中で考えると、大ホールが 20 年後になるのであれば、逆にしっかり考えられるチャンスがある気がする。この数年で世の中が変わってきた中で、ここで細かいことを考えても、20 年後どうなっているかは想像もつかない状況なので、どう判断していくかは次の世代の人たちになると思う。なので、そこに持っていくときにどう考えないといけないかを考えると、飯田文化会館が改修され、鼎文化センターのところ、旧飯田市公民館のところ、あと人形劇場もあるとすれば今までどおりだと思う。

そう思ったときに、何を変えなくちゃいけないのか。それは先ほどもあったように、都市構造をどう結びつけるか。今までそういう機能がなかったと思うので、それをどう結びつけるかが一番の課題になってくると思う。それを有機的につなげることは大事だと思う。

先ほど「こどもたちの地域に対する誇りということで、分散というのは非常に嬉しい」という話がありましたが、それを考えると飯田は全国でも稀な公民館がすごいしっかりしていて、各公民館に 50 人 100 人ぐらい入れる場所がある。飯田文化会館としての文化事業と、公民館の機能みたいなものを結びつけて、各公民館の建物の使い方を文化事業、いわゆる文化会館的な考えをもう少し入れたりすると、今各公民館の市民のパワーもなかなか難しくなってくる中で、楽しさというところで新しいやりがい生まれるのではないかと話を聞いて

思いました。

つい先日も、奈良県に公民館の建替えについて「話に来てほしい」とお声がかかり、行ってきたのですが、まさに公民館とは文化活動している人たちの拠点です。文化会館と同じ機能を持ち、せっかく飯田にはこれだけすごいものがあるなら、そこを結びつけないのは非常にもったいないと思いました。

あとは個人的に要望したいことは、まず、小ホールに 100 人と書いてありますが、こどもたちが使う 100 人であればホールではないほうがいいと思います。部屋のほうが使い勝手がいい。もしそういう部屋であれば、どこの公民館にもあるので、あそこにつくるときにも部屋をつくれればいいと思う。100 人規模のコンサートをするとしたら、ムトスぷらざもあるし、公民館もある、200 人なら人形劇場がある。そう思うと 300 席ぐらいの小ホール、600 席ぐらいの中ホール、1,000 席ぐらいの大ホールというのをホールとしてつくるなら、いいのではないかと思います。

もう一つの要望は、今まで足りなかったことを考えると、各文化施設の敷居が高いことです。誰でも集えることを考えると、フリースペースに来た人たち、高校生でも中学生でも大人でもふらっと入れて、たたずんでいけるような仕掛けを、今と同じ場所でいいので、仕掛けができれば大分変わらと思う。そういう仕組み、公民館でも館長さんたちといろいろな話をすると、必ず出てくるのが「入り口に事務室があって高校生たちも入りづらいんですよ」と「みんなに寄ってほしいんだけど、入るときに躊躇しちゃう」。だからそうじゃないような、そういう意味でムトスぷらざが非常に成功している感じがあって、そんな感じで集えるフリースペースの敷居を下げることをお願いしたいです。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それでは続いて、オブザーバーからお願いします。

○オブザーバー 客観性を持ってお話をしたいと思っています。

まず、「ひろば」という概念は、説明のあった概念だったかどうかというのが一つ。もう一つは、分散という概念は、説明があったような概念であったのか。整備検討委員会で議論を重ねてきた内容というのは、「ひらば」・「集う」という意味では、「まち」全体のことを言ったのだろうか。

もう一つ、分散という概念は広いエリアを言ったのか。この辺が非常に今回の説明では合点がいけない部分だと整備検討委員会の皆さんの思いを代弁したとすれば、そうなると思います。

非常に長期財政見通しや内外の意見を取り入れながら、現場は苦勞された結果だと思えます。これはよく分かりますが、これから、現実を見ながらも夢を持って文化会館をつくりたいという検討委員会の皆さんの、飯田の文化を考えてきた思いを考えると、もう少し原点に戻った概念のあり方があるのではないかという気がします。

それから、先ほどお話があった都市構造の改善ですが、これは非常に大事なことだと思います。ただ一方で、改善することがメリットではあるけれども、長い文化が壊されるというデメリットも出てくる。その2つの選択が求められるなという気がしました。

コロナ禍で文化活動が止まるのが非常に悲しかったです。そのことは重々承知していただいていると思いますので、継続できるよう、現在の飯田文化会館を改修していくことが必要であると思います。

最後に、もう 20 年程かけて検討するのですから、もう一度我々もしっかり検討して、それから文化会館側もしっかり検討していただきたいと思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それでは最後に、委員の皆さんからの意見・感想を受けてでも結構ですし、全体を通してのコメントを学識委員の皆さまからいただきたいと思います。お願いします。

○学識委員 皆さまの熱いご意見、さすが飯田だなと思いました。まちのことを、文化のことを考えておられ、熱い思いがあり、いろんなことを理解しながらお話されているのをお聞きしました。

私が今、皆さまのお話を聞いて思うのは、一体整備を目指して始まったので、それが実現できないのはとても残念だと思います。一方で、この社会情勢や全国の状況を見ると、本当に厳しい状況です。正直、本音の話をすれば、このまま飯田市も止まって消えてしまうかなと思っていたのですが、逆に「文化活動を止めない」という力強いメッセージが出てきたこと、さすが飯田市だなと思いました。

皆さまのお話をお聞きし、様々ないくつかのホールを運営してきている者として、いくつかのホールをつくる作業をお手伝いしてきた者として、あと全国の公共ホールとご一緒していて、思うのは、新しい立派なホールだが、全然活動していないホールには魅力を感じず、建物が新しい、機能が最新ではないが、まちと向き合い、芸術と向き合って、いい活動をしているホールは、やっぱり魅力的でキラキラしている。

皆さまのお話を聞いていると、この方針案は、基本理念を実現させていこうとする活動がスタートすれば、まち全体が本当にキラキラ輝くものになるのではないかと思います。ア

ウトリーチという活動も 20 数年前から始まって、日本国内でも一時期はメガトレンドのように全国で広がり、今は定着して普通に活動としてあるのですが、そういったアウトリーチ活動をやっているファシリテーターの人たちも育ってきている。そういったアーティストたち、あとまちの人たちとも組んでいけば、まち全体が盛り上がっていきけるのではないかと思います。

ただ、皆さまのお話の中でも多く出てきた運営できる人は、全国の公共ホールで今向き合っている大変なことです。私もアドバイザーやプロデューサーとしていくつかのホールをお手伝いさせていただいていますが、プロデューサーの仕事は企画をつくる仕事ではなくて、指定管理者制度の中でホールを運営していくとか、運営していける若い人材を育てていくという、人材育成に関する仕事が多いです。人を確保して育成していくことが本当に大事です。なので、基本理念を達成するためには活動と人が大事だと思っています。それを改めて確認した日となりました。本当にありがとうございます。

この方針案が将来、大ホール機能が新しく、施設が新しくなるまでに、この理念が達成できている、大きなものになっていることを願っております。

私からは以上です。

○委員長 はい、ありがとうございました。それでは、続いてお願いします。

○学識委員 私も同じく、皆さまの大変熱い思いを聞かせていただき、基本構想検討の場でいろいろと議論したことを思い出しながら聞いていました。

先ほどあった「文化活動を止めない」、すなわち施設をどうするか以上に、施設をつくる目的である文化活動を、飯田の中でどう継続していくべきなのか、どう継続していけるのかを考えることが大前提という認識を新たにさせていただきました。

そういった中で、一体整備を前提に検討してきたが、分散という考え方が出てきている。そのような状況で、一つ目は本当に一体整備はできないのかという一つの視座が提示されたと思いました。

それから、分散になったときに、いかに分散した施設を一体化するか、連続するか、連結するかが非常に重要であるという視点が示されたと考えました。その一体化、あるいは連結はソフトとハードの2つの面でなされる必要があると感じました。特にソフトに関しては、当然オペレーション、運営をどうするかも含めてです。

それから、人材育成については連結と同時に、継続にも関係すると思い、そのことの重要性が示されたと理解しました。

それからもう1点、一体化・連結に関しては、ハード面、すなわち交通、移動などがどの

ようになされるのかということ。それから分散したときの広がり適切なスケールや、そのスケールに応じた移動手段のスケールというものも非常に重要になると思います。

当然のことながら、現段階では分散がいいのか一体がいいのかの判断はつきかねると思いますし、その辺りは実現性も踏まえて考えていく必要がありますが、より具体的な検討が進んでいく中で、本日皆さんから提示された視点が実現可能なのかを、常に理念を参照しながら考えていくことが重要であると思いながら、皆さんの議論をお聞きしました。

私からは以上です。

○委員長 はい、どうもありがとうございました。

以上で委員の皆さまからご意見、感想を伺いましたので、最後に佐藤市長から一言いただきます。

○市長佐藤 皆さんから大変貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。

何人かの方から「現実的な案」というコメントもありましたが、我々としてはいろいろな理想や思いがある中で、どうやったら実現できるのかを実務者という面もありながら、絞り出した案とご理解いただきたいと思います。

感想も含めて申し上げると、分散する、敷居を下げるにつながるのですが、文化会館の運用は専門家だけでやることではないと私は実は思っています。というのは、舞台芸術はもちろん大事ですが、「飯田ひろば」という概念はオープンスペースというか、文化に触れる様々なあり方を提案していると私は理解をしています。ですので、完璧なものばかりではなく、例えば今のムトスぷらざはホールの専門家がいないわけではないですが、すごくいい感じの使われ方をしているのではないかと思っています。ですから、例えば、仮称飯田こども広場の中に設けられるホールと言われるスペースも、少し素人っぽい使われ方も含めて、いろんな形で使われるイメージを持っております。全てのホールに完璧に照明から音響から全部できるスタッフがいるというイメージとはちょっと違います、それが複合化ということでもあります。そんなことで、文化会館のあり方そのものも少し変わるだろうというのが私のイメージでもあります。それも含めてどういう形で最終的にいくのかをまとめていければと思っています。

個人的な感想も含めて申し上げました。今日いただいたいろんなご意見、最終的にどうまとめていくかは市の責任でございますので、しっかり吸収してまとめていきたいと思っています。

今日はありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

本日予定しておりました議事は以上となります。

委員の皆さま、ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

4 今後の予定ほか

○委員長 それでは、「今後の予定」を事務局からお願いします。

○室長筒井 ありがとうございました。

本日説明した、基本方針案ですが、12月の市議会全員協議会に報告する予定です。今日のご意見も含めて、ニュースレターで紹介したいと思いますし、議事録はウェブサイトに掲載させていただきます。最終的には、市長の話にありましたとおり、市の責任においてまとめて、また、報告を上げたいと考えています。

本日、冒頭で次長から話がありましたが、皆さまの任期は、今年度末の3月末です。さらに集まっていってご意見を伺うこともあるかもしれませんが、市で検討を進めていきたいと思っています。

本日の感想等、言い足りなかったこともあるかと思いますが、アンケート用紙を、後日でも構いませんので事務局に提出いただければと思います。

事務連絡は以上です。

○委員長 ありがとうございました。

5 閉 会

○委員長 長時間にわたりありがとうございました。

以上で、第13回整備検討委員会を閉会といたします。

ありがとうございました。

閉 会 午後8時40分